

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2005-503809 (P2005-503809A)

【公表日】平成 17 年 2 月 10 日 (2005.2.10)

【年通号数】公開・登録公報 2005-006

【出願番号】特願 2003-530824 (P2003-530824)

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

A 0 1 K 67/027

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 19/00

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/10

G 0 1 N 33/15

G 0 1 N 33/50

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 0 1 K 67/027

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 19/00

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

C 1 2 N 5/00 A

C 1 2 N 5/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 3 月 31 日 (2005.3.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヒト化 R A M P 1 蛋白質をコードする精製核酸分子であって、前記蛋白質がヒト R A M P 1 蛋白質のアミノ酸残基 74 に対応するアミノ酸残基においてトリプトファン残基を含む、前記精製核酸分子。

【請求項 2】

組換え宿主細胞でヒト化 R A M P 1 蛋白質を発現させるための発現ベクターであって、前記発現ベクターが請求項 1 に記載の D N A 分子を含む前記ベクター。

【請求項 3】

組換えヒト化 R A M P 1 蛋白質を発現する宿主細胞であって、前記宿主細胞が請求項 2 に記載のベクターを含む前記宿主細胞。

【請求項 4】

組換え宿主細胞におけるヒト化 RAMP 1 蛋白質の発現方法であって、

(a) 請求項 3 に記載の発現ベクターを適切な宿主細胞にトランスフェクトする段階、および

(b) 前記ヒト化 RAMP 1 蛋白質を前記発現ベクターから発現させる条件下で段階 (a) の宿主細胞を培養する段階

を含む前記方法。

【請求項 5】

配列番号 1、3、5 及び 7 から構成される群から選択されるヌクレオチド配列を含むヒト化 RAMP 1 蛋白質をコードする精製 DNA 分子。

【請求項 6】

他の蛋白質を実質的に含まないヒト化 RAMP 1 蛋白質であって、前記蛋白質がヒト RAMP 1 蛋白質のアミノ酸残基 74 に対応するアミノ酸残基においてトリプトファン残基を含む前記ヒト化 RAMP 1 蛋白質。

【請求項 7】

組換え宿主細胞内に含まれる DNA 発現ベクターの産物である請求項 6 に記載のヒト化 RAMP 1 蛋白質。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の組換え宿主産物から精製されたヒト化 RAMP 1 蛋白質を含む実質的に純粋な膜調製物。

【請求項 9】

機能的 CRLR 蛋白質を更に含む請求項 8 に記載の実質的に純粋な膜調製物。

【請求項 10】

前記蛋白質が配列番号 2、4、6 及び 8 から構成される群から選択される請求項 6 に記載のヒト化 RAMP 1 蛋白質。

【請求項 11】

組換え宿主細胞内に含まれる DNA 発現ベクターの産物である請求項 10 に記載のヒト化 RAMP 1 蛋白質。

【請求項 12】

請求項 11 に記載の組換え宿主細胞から精製されたヒト化 RAMP 1 蛋白質を含む実質的に純粋な膜調製物。

【請求項 13】

機能的 CRLR 蛋白質を更に含む請求項 12 に記載の実質的に純粋な膜調製物。

【請求項 14】

CRLR 蛋白質が配列番号 10、12 及び 14 から構成される群から選択される請求項 13 に記載の膜調製物。

【請求項 15】

CGRP 受容体蛋白質のモジュレーターの同定方法であって、

(a) ヒト RAMP 1 蛋白質のアミノ酸残基 74 に対応するアミノ酸残基においてトリプトファン残基を含むヒト化 RAMP 1 蛋白質と CRLR 蛋白質を含む CGRP 受容体に試験化合物を接触させる段階と、

(b) 前記試験化合物が CGRP 受容体蛋白質に及ぼす効果を測定する段階を含む前記方法。

【請求項 16】

段階 (a) のヒト化 RAMP 1 蛋白質が組換え宿主細胞内に含まれる DNA 発現ベクターの産物である請求項 15 に記載の方法。

【請求項 17】

体細胞と胚細胞がヒト化 RAMP 1 についてホモ接合であるトランスジェニック非ヒト動物であって、発現されるヒト化 RAMP 1 蛋白質がヒト RAMP 1 蛋白質のアミノ酸残基 74 に対応するアミノ酸残基においてトリプトファン残基を含む前記トランスジェニッ

ク非ヒト動物。

【請求項 18】

トランスジェニックマウスである請求項 17 に記載のトランスジェニック動物。

【請求項 19】

請求項 18 に記載のトランスジェニックマウスに由来する細胞系。

【請求項 20】

マウスが繁殖可能であり、ヒト化 RAMP1 遺伝子をその子孫に伝達することができる請求項 18 に記載のマウス。

【請求項 21】

体細胞と胚細胞が内在 RAMP1 遺伝子とヒト化 RAMP1 についてヘテロ接合であるトランスジェニック非ヒト動物であって、発現されるヒト化 RAMP1 蛋白質がヒト RAMP1 蛋白質のアミノ酸残基 74 に対応するアミノ酸残基においてトリプトファン残基を含む前記トランスジェニック非ヒト動物。

【請求項 22】

トランスジェニックマウスである請求項 21 に記載のトランスジェニック動物。

【請求項 23】

請求項 22 に記載のトランスジェニックマウスに由来する細胞系。

【請求項 24】

マウスが繁殖可能であり、ヒト化 RAMP1 遺伝子をその子孫に伝達することができる請求項 22 に記載のマウス。

【請求項 25】

体細胞がヒト化 RAMP1 についてヘミ接合であるトランスジェニック非ヒト動物であって、発現されるヒト化 RAMP1 蛋白質がヒト RAMP1 蛋白質のアミノ酸残基 74 に対応するアミノ酸残基においてトリプトファン残基を含む前記トランスジェニック非ヒト動物。

【請求項 26】

トランスジェニックマウスである請求項 25 に記載のトランスジェニック動物。

【請求項 27】

請求項 25 に記載のトランスジェニックマウスに由来する細胞系。

【請求項 28】

マウスが繁殖可能であり、ヒト化 RAMP1 遺伝子をその子孫に伝達することができる請求項 26 に記載のマウス。